

# 埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 第62回 埼玉県公衆衛生大会 開催

### 当会推薦5名、公衆衛生事業功労者として埼玉県知事表彰を受賞

平成30年10月29日（月）に埼玉会館小ホールにて第62回埼玉県公衆衛生大会が開催され、埼玉県知事表彰の授賞式が執り行われ、当会から、三志奈賢司氏、後藤義也氏、三木隆治氏、永野栄子氏、松岡優氏の5名が公衆衛生事業功労者として受賞した。

授賞式は上田知事の挨拶の後に執り行われ、その後、来賓を代表して埼玉県議会の齊藤正明議長、埼玉県医師会の金井忠男会長より祝辞が述べられ受賞者代表の謝辞の後、閉会となった。

今回多くの会員が知事表彰を受賞できたことは、会として誇らしいことであり、会員の地道な努力・活動が認められたことは、会長としても大変嬉しいことである。

受賞者を囲んでの記念撮影は、埼玉県医師会長である金井顧問もご多忙にもかかわらずお付き合いくださいり、片付けが始まった壇上に再度電気をつけてもらい笑顔でチーズ！と相成った。

受賞者の皆様、このたびは誠におめでとうございました！

（文責：神山清志）

## 第62回 埼玉県公衆衛生大会



左から松岡優氏、三志奈賢司氏、後藤義也氏、三木隆治氏、金井忠男埼玉県医師会長（当会顧問）、永野栄子氏、神山会長

## 受賞者 喜びの一言

埼玉医科大学病院  
三志奈 賢司



この度、第62回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞をいただきました。この栄誉ある賞にご推挙いただきました神山 清志会長はじめ埼玉県臨床検査技師会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回の受賞は、血清検査研究班等の活動が評価されたものと考えております。研究班においてご指導いただいた諸先輩方や共に活動に勤しんだ班員の皆様、快く研究班活動に送り出していた埼玉医科大学病院中央検査部の上司や同僚の皆様に心より感謝申し上げます。

これからも地域医療と埼玉県臨床検査技師会の発展に微力ながら寄与してまいりたいと考えております。今後とも倍旧のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

埼玉医科大学国際医療センター  
後藤 義也



この度、第62回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。推薦していただきました埼玉県臨床検査技師会神山 清志会長をはじめ理事の皆様に深く御礼申し上げます。

今回の受賞につきまして病理検査研究班の活動ならびに遺伝子染色体検査に関わる活動を評価していただいたものと思います。いずれも御指導いただいた諸先輩方や研究班の皆様との時間が楽しく、活動に参加できたことが私個人の力になりました。また、これらの活動に理解し協力していただいた職場の皆様と家族にも感謝いたします。

引き続き埼玉県臨床検査技師会会員として微力ながら会の発展に貢献できたらと考えております。この度は誠に有難うございました。

獨協医科大学埼玉医療センター  
三木 隆治



この度、第62回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。ご推薦いただきました埼玉県臨床検査技師会の神山 清志会長をはじめ、理事の皆様、技師会の諸先輩の方々に深く感謝申し上げます。

今回の受賞は、臨床化学検査研究班の活動と埼玉県医師会精度管理事業の活動をご評価していただいたものと思います。このような活動を行って来れたのは、先輩方の指導の下、共に協力して活動をさせていただいた研究班の皆様と、このような活動に対して支援していただいた職場の皆様によるものであり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

これからも、技師会のさらなる発展のために少しでも貢献出来るように努力していきたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

獨協医科大学埼玉医療センター  
永野 栄子



この度、第62回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。ご推薦いただきました埼玉県臨床検査技師会神山会長、副会長、理事の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回の受賞は、微生物検査研究班および埼玉県医師会精度管理事業の活動を評価していただいたものと思いますが、歴代班長、各班員のご協力、そして職場の皆様の支えがあればこそその受賞と考えております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

今後も皆様方のご指導、ご協力を仰ぎながら埼玉県臨床検査技師会の発展にこしでも貢献できるように日々、努力してまいります。このたびは誠にありがとうございました。

埼玉医科大学病院  
松岡 優

この度、第62回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。この栄えある賞を受賞するにあたりご推薦・ご尽力いただきました埼玉県臨床検査技師会会长神山清志様をはじめとする関係する皆さん方に深謝いたします。

この度の受賞は、一般検査研究班、埼玉県医師会精度管理事業、埼玉県医学検査学会実行委員、埼臨技理事等の活動を評価していただいたものと思います。長い期間に渡り技師会活動を行うことができたのは、歴代会長や班長のご指導、理事や班員の皆さまのご協力、また職場の皆さまに支えられ快く技師会活動に送り出してもらうことができた賜物と感謝しております。

多くの出会いも得ることができました。一般検査研究班の活動では日中の仕事が終った後に班員の施設に集まり、夜中まで疑似便の作製を行った事など、日常業務では経験できないことも体験することができました。

これからもいただいた賞を励みに微力ではありますが、会員、県民の皆さま方のために技師会活動に尽力し少しでも貢献したいと考えております。引き続き皆さま方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この度は誠にありがとうございました。



## 認知症対応力向上講習会Bを開催して



川越リハビリテーション病院  
吉岡 直子

国の認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を受け、日臨技では、臨床検査技師のための認知症対応力向上講習会事業が進められています。詳細は割愛させていただきますが、都道府県技師会では講習会Bの開催が義務付けられています。

埼臨技では、昨年に続き2回目の開催で11月4日(日)午前9時から埼臨技事務所にて開催され、受講者は13名でした。

私は、渋谷賢一氏(越谷市立病院)を中心に、高梨淳子氏(北里大学メディカルセンター)と併に、講習会の司会進行・実習サポートを担当させていただきました。

プログラムは、早朝から暗くなるまで、神経心理学的検査(HDS-R、MMSE、物忘れ相談プログラム、ADAS、TDAS)に関するビデオ視聴と実技を行う内容でした。

前日の打ち合わせでは、受講者が飽きないよう、途中でビデオを止め実技や解説を挟むなど臨機応変に進行していくことになりました。

実技では、受講者が交代で検査者役、被検者役、タッチパネル式の物忘れ相談プログラムなどを体験していただきました。ADASは課題が多いため、1課題ずつビデオを止め、講師が前で実技を行いました。

渋谷氏による「認知症の社会的背景」「臨床検査技師による認知症スクリーニング検査の参入」についてのミニ講演は、自施設で参入を検討する際のアドバイスになると思います。

PCトラブルにより講義を中断させる等、ご迷惑をおかけすることもありましたが、全日程が予定時間内に終了し、13名全員の方に修了証とバッジをお渡しすることができました。

1回の講義のみで神経心理学的検査を開始するのは難しいと思います。

鳥取大学の浦上先生が「今回の講習会では認知症を正しく理解していただくことであって、単なる検査のテクニックの習得することが目的ではありません。「魂」のようなものが受講者の皆様に伝われば幸いです」とおっしゃっていました。

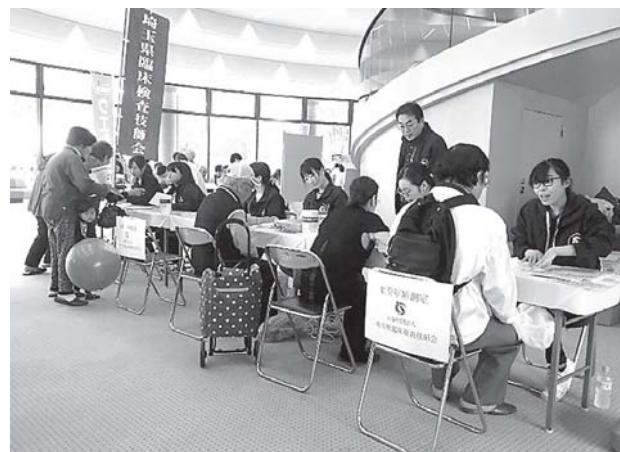
今回の講習会を開催したことによって検査技師が神経心理学的検査を実施していただけるようになればと思います。

最後に、講習会担当の矢作理事、奈良理事、長岡理事をはじめ、技師会関係者の皆様に深く感謝いたします。



## 深谷市福祉健康まつり開催される

去る10月27日(土)深谷市ビックタートルで開催された第13回深谷市福祉健康まつりに、埼臨技公益事業の一環として参加協力し、血管年齢の測定を行いました。当日は天候にも恵まれ、会場には600名近くの市民の皆様が来場し、大盛況でした。



イベントスタッフとして参加された会員の方の感想を紹介します。

社会医療法人社幸会 行田総合病院  
兼岡 菜摘



今回初めて運営スタッフとして参加させてもらい、とても貴重な経験をさせていただきました。私は普段血液検査を主に担当しており、患者様と接する機会があまり多くありません。なので、今回健康まつりにお越しいただいた皆様と検査を通じて、日々の健康に対する取り組みについてなど沢山お話しすることができ、とても勉強になりました。また、こちらも検査技師として少しでも皆様のお役に立つことができ、充実した一日を過ごすことが出来ました。また機会があれば参加させていただきたいです。

呻 呴

## 全国【検査と健康展】埼玉会場 開催される！

去る、11月10日（土）に浦和駅西口コルソ1階 コルソ通りにて平成30年度全国「検査と健康展」を開催しました。全国「検査と健康展」とは、11月11日の「臨床検査の日」を中心に全国の都道府県の技師会が、一般市民の方々に臨床検査の正しい知識の啓発と臨床検査技師のPRのために行っている公益事業です。当時は秋晴れの最高の天気と新聞の折り込みチラシのおかげで開始前から長蛇の列となり、その列は途切れること無く、大変盛況となりました。実務委員一同のチームワークとスムーズな誘導と効率の良い検査ができ、事故やトラブルもなく終えることができたのもご参加いただいた実務委員の皆様のお陰です。ありがとうございました。

（事業部担当：濱田）



以下に今回ご参加頂いた若手技師さんの感想を記載します。

防衛医科大学校病院  
神谷 明

今回、全国「検査と健康展」に参加させていただき、骨密度測定を主に担当しました。普段患者さんと触れ合う機会の少ない部署での勤務のため、市民の方々としっかりと向かい合い、丁寧に検査と結果の説明ができるよう心掛けました。

イベント内容や検査の説明をしていく中で気づいたのは、市民の方々が医療機関を受診した際に検査結果や自身の健康状態について、私が思っている以上に気にかけていることでした。今どのような検査を受けていて、結果から何がわかるのか、何に気をつけばいいのかを我々臨床検査技師が説明することで、検査と自身の健康についてさらに興味を持つていただけることを体感できた良い機会でした。

普段我々が行っている多岐に渡る検査についても、同じように説明できるようにすることで、臨床検査技師としての活躍の場を広げていきたいと思いました。また、今回は他施設の方々との交流も貴重な体験となりました。共に参加されたスタッフの方々及び埼玉県臨床検査技師会の皆様、この度はありがとうございました。





## 各研究班の研修会報告を致します。

### テーマ IgG4関連疾患について学びましょう

主催 血清検査研究班

実施日時：平成30年9月27日 19時00分～20時15分

会場：大宮ソニックスティ 604号室 点数：基礎教科－20点

講師：佐久間 悠（MBL株式会社 医学生物学研究所 IDV事業部 学術部）

参加人数：会員23名 賛助会員1名

出席した研究班班員：鈴木淳子 鯨井智子 岩崎篤史 庄司和春 天野直樹 田中亜紀

研修内容・感想など

今回の講義ではIgG4関連疾患についての基礎を教えていただいた。IgG4とは、生体防御を司る免疫グロブリンIgGのサブクラスであり、アレルギーの抑制に関わると考えられている。

IgG4関連疾患とは比較的新しい日本発信の疾患である。原因は不明であり、難病指定されている。患者数は約8000人だが、疫学調査では26,000人以上いるとも言われている。IgG4関連疾患の特徴は、①腺、涙腺、唾液腺、腎などの全身の諸臓器の腫大や結節・肥厚性病変を呈する②高IgG4血症（135mg/dL以上）③IgG4陽性形質細胞の浸潤④花瓶様の纖維化などがあげられ、IgG4関連疾患包括診断基準2011に盛り込まれている。この基準により確定診断できない場合でも、臓器別の診断基準により診断が可能となる。

IgG4関連疾患に関する論文では、50～70代が90%を占め、1：4で男性が多く、95%で5大臓器病変のいずれか1つ以上を有している（多臓器病変があるとIgG4が高い傾向にある）との報告がある。

症状が出てから治療開始までが長いと十分な回復が望めないことがあり、早期診断・治療開始が重要となる。また、必ずしも疾患特異性が高いわけではないため悪性腫瘍やCastleman病などとの鑑別が重要となる。よってIgG4関連疾患の診断にはその特徴をよく理解し、検査数値を正しく読み解き診断することが必要となる。

今回の講義ではIgG4についてわかりやすく丁寧に教えていただきとても有意義な時間を過ごすことができた。普段から検査値・患者の状態・疾患の特徴を考えながら仕事をしていきたい。

(文責：天野直樹)

### テーマ しっかり学ぼう！「超音波の新技術」

主催 生理検査研究班

実施日時：平成30年10月6日 14時30分～16時30分

会場：自治医科大学附属さいたま医療センター 南館2階講堂 点数：専門教科－20点

講演1：キャノンメディカルが提案する肝臓の硬さと脂肪の評価法

講師：加々美 瑠莉子（キャノンメディカルシステムズ株式会社）

講演2：超音波診断用造影剤について（ソナゾイド）

講師：手塚 一明（第一三共株式会社）

講演3：C型肝炎におけるShear Wave Elastography (SWE) の臨床応用

講師：大川 修先生（獨協医科大学埼玉医療センター 消化器内科）

参加人数：会員28名

出席した研究班班員：早川勇樹 瀧澤義教 高梨淳子 田名見里恵 武藤由里子 横尾愛

研修内容・感想など

今回の研修は「しっかり学ぼう！超音波検査の新技術」と題して、肝臓領域をテーマに開催した。

講演1では「キャノンメディカルが提案する肝臓の硬さと脂肪の評価法」について、加々美氏にご講演いただいた。

Shearwave解析により肝の粘性を評価することが可能となり、Shear Wave Elastography (SWE) で求められる弾性を加えることで、肝疾患診断能向上につながることだった。装置性能向上に伴う新技術を業務に活かす為には、検査者側にも継続的な努力が要求されると感じた。

講演2では「超音波診断用造影剤について（ソナゾイド）」について、手塚氏にご講演いただいた。

発売から11年目となるソナゾイドは、肝のみでなく他領域で使用される機会も増えているが、

技師が携わる施設は多いとはいはず、技師向けの講演を聞く機会が少ない。今回は基本的なプロトコルの紹介から、腫瘍による造影効果の違いなど分かり易く解説いただいた。良性腫瘍の診断能の高さは他のモダリティーに勝る、など興味深い内容もあり、腹部検査に携わる技師なら知っておきたい知識として有意義な講演であった。

講演3では、「C型肝炎におけるSWEの臨床応用」について、大川修医師にご講演いただいた。

講演前半ではSWEの一般的な測定方法、超音波診断装置の設定、測定上の注意点などのお話を検査結果に対する解説があった。先生からは、検査のコツなどのお話を聞けて参考になった。講演後半はSWEの研究結果について発表いただいた。

講演では臨床に携わる消化器内科医師からSWEの検査から研究までと幅広くお話をいただき大変勉強になった。

今回の研修会では日々向上する超音波技術の一端を学ぶことができ、検査担当者のステップアップに寄与できたと考えられ有用であった。

(文責：田名見里恵、瀧沢義教)

## テーマ 冬季のウイルス感染症

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成30年10月19日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックスティ 602号室 点数：基礎教科－20点

講 師：内田 和江（埼玉県衛生研究所）

参加人数：会員72名

出席した研究班班員：穴原賢治 富井貴之 菊地孝司 石井孟 鈴木智子 吉田翔平 立塚梓

研修内容・感想など

今回の研修会は「冬季のウイルス感染症」というテーマで、インフルエンザや感染性胃腸炎の原因となるノロウイルス等を中心に講演していただいた。

毎年流行を繰り返す季節性インフルエンザは、五類感染症に分類され定点把握対象となっている。流行時期と検出状況は、国立感染症研究所等のホームページで公開されており、過去4シーズンの状況と比較して見ることができる。講演ではこれらのスライドも提示され、B型はA型より流行のピーク時期が遅いこと、A型は流行のピークは毎シーズンほぼ同じ時期ではあるがA(H1)とA(H3)が交互に流行る傾向があるなど大変興味深いものであった。

感染性胃腸炎の原因となるウイルスは、ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルス等がある。検出報告数はノロウイルスが最も多く、毎年10月～4月頃に集団感染事例が多発している。ノロウイルスは多様な感染経路を持ち、感染力・抵抗力が非常に強い。ノロウイルスの発症に必要な病原体量は10～100とされている。有症者の便からは $10^4$ ～ $10^8$ 程度、吐物からは $10^3$ ～ $10^6$ 程度のウイルス量が存在する。また不顕性感染もあり、無症状者の便からも多いと $10^5$ ほどのウイルス量が存在する。

ウイルスの特徴や感染経路、シーズンごとの発生動向などを知ることは、感染予防対策にも繋がり、これから流行シーズンを迎える今の大変有意義な研修会であった。

(文責：立塚梓)

## テーマ C型肝炎の最新情報を学びましょう HCV検査、診断、治療と最近のトピックスについて

主催 血清検査研究班

実施日時：平成30年10月24日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックスティ 905号室 点数：基礎教科－20点

講 師：新妻 幸子（富士レビオ株式会社 学術サービス部営業学術課）

参加人数：会員59名 賛助会員2名

出席した研究班班員：庄司和春 鈴木淳子 鯨井智子 中別府奈穂子 田中亜紀 多川裕介 岩崎篤史

研修内容・感想など

今回はHCV検査、診断、治療と最近のトピックスについて新妻氏にご講演いただいた。現在の日本では年間約3万人が肝がんで死亡しており、がんによる死亡数でも上位に入る。国内でのHCV感染者は約150万人～200万人であり、自分自身が感染していることを知らない潜在性

キャリアが約29万人も存在している。HCV検査の実施により疾患の早期発見・早期治療につながり、肝硬変・肝がんへの移行を減らすことが可能である。

C型肝炎の治療はHCV持続感染によって惹起される慢性肝疾患の長期予後の改善、即ち肝癒ならびに肝疾患関連死の抑止を目的として、抗ウイルス療法を用いたHCVの排除を目指すのが一般的である。抗ウイルス療法は従来インターフェロンを用いた治療が用いられていたが、直接作用型抗ウイルス薬 (Direct Acting Antivirals Agent : DAA) による治療へと変化している。インターフェロン治療はGenotype 1bの高ウイルス量で感受性が低く、発熱や全身倦怠感など様々な副作用を伴う場合が多い。DAAはHCV genomeの特定の領域をピンポイントで阻害し、抗ウイルス効果を発揮する働きを持ち、副作用が少なく様々な合併症でインターフェロンが使用できなかった患者に対しても治療が可能となる。2017年には最短8週間治療を可能にするDAA薬も販売されている。しかしウイルス排除により肝癒リスクは減少するが、完全にリスクが消失するわけではないため、定期的な血液検査、画像検査は必要とされる。

埼玉県の肝炎対策についてお話をいただいた。肝炎にかかっているかどうかは肝炎ウイルス検査を受けなければわからず、早期発見・早期治療の観点から肝炎ウイルス検査の受検促進を目標に対策を行っている。肝炎ウイルスは本人が自覚的に受検する場合もあるが、大きな外科手術や妊娠・出産時などに、必ずしも本人が自覚しないうちに受検する場合もあり、肝炎ウイルス検査を受けたかわからない、覚えていないといった非認識受検者が多いのが現状である。肝炎ウイルス検査の検査目的や検査結果に関わらず、受検者自身が検査結果を正しく認識できるように医療提供者が適切な説明を行うことが求められている。

今回はHCV検査の基礎的な話から最近の話題について詳しくご講演いただき、非常に有意義な研修会となった。

(文責：岩崎篤史)

## テーマ 小児の血液像から見えてくるもの～先天性疾患を見逃さないために～

主催 血液検査研究班

実施日時：平成30年10月30日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科－20点

講 師：大澤 良男（元病体生理研究所）

参加人数：会員59名

出席した研究班班員：原誠則 星孝夫 網野育雄 軍司雅代 蔵光寛行 渋川絵美 中山智史  
石井千晴

研修内容・感想など

赤血球形態異常、特に迅速な対応を求められる「破碎赤血球」の出現機序から識別基準からはじまり、ご自身が実際に溶血性尿毒症候群(HUS)やUpshaw-Schulman症候群に遭遇した時の臨床への報告した状況を、セリフ形式でリアルに再現していただいた。

標的赤血球、涙滴赤血球を認めたときに、小児と成人で疑う疾患の違いや、小児であっても、新生児期と乳幼児期など患児の年齢に応じて、特に注意して観察するべき赤血球の異常所見と形態異常から考えられる疾患について、分かりやすくまとめていただいた。

白血球の形態では、リンパ球に空砲のみられるライソゾーム病、好中球に封入体のみられるChediak-Higashi症候群、顆粒球過形成かつ核糸の著名な延長がみられるMyelokathe x is、好中球が2分節までのPelger Huet異常など、特徴的であるのに、知らないと見落としてしまい報告できず、診断・治療がおくれてしまう症例も示していただいた。

血小板形態からも先天性疾患に気づくチャンスがあり、血小板減少症がある場合は、巨大血小板や微小血小板の出現などサイズに異常が見られるか観察する重要性をあらためて感じた。

また、形態異常に気付いた時に、易感染性や家族歴、その他の身体的特徴や症状などの情報が大きなヒントになることも合わせて提示していただいた。

講演最後の『先天性疾患を経験することは稀ではあるが、「先天性疾患の標本」に遭遇した時に見落とさないために、どんな異常所見があるのかを把握しておくことが大切であり、「何か変？」と思うことが肝要である。特に、小児科においては、先天性疾患をとらえる上で、臨床症状や家族歴も重要である。日頃から小児科医とのコミュニケーションを図っておくことも大切である。』という言葉が重く響いた。

(文責：石井千晴)

**テーマ 解離法いちから解説！消去法もいちから解説!!  
— 初歩から教える抗体解離法と消去法の手順方法 —**

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成30年10月31日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：基礎教科－20点

講 師：柿沼 幸利（バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 診断薬事業部）

参加人数：会員67名 賛助会員1名

出席した研究班班員：渡邊一儀 長谷川卓也 久保居由紀子 野呂光恵 小原佑太 宮澤翔子

研修内容・感想など

平成28(2016)年10月に赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドラインが2版に改訂された。改訂によって、不規則抗体スクリーニング時の検査方法が詳細に明記され、消去法での可能性の高い抗体や否定できない抗体の推定方法等がより具体化された。今回の研修会では柿沼氏にガイドラインを含めた消去法の考え方や抗体解離についてわかりやすく教えていただいた。

消去法は、症例の結果から可能性の高い抗体や否定できない抗体を実際に推定し、抗体解離法に関しては『なぜ解離する必要があるのか』⇒『どのように検査するのか』⇒『その結果からどのような輸血赤血球を選択するのか』の一連の流れを教えていただいた。温式自己抗体はすべての血球に凝集し、検査を進める中で苦労することが多い。自己血球を用いて患者血漿を吸収処理することや自己抗体を解離後に患者赤血球の抗原検査を実施することが輸血赤血球を選択する上で重要であると再確認できた。

各施設において使用できる試薬等は限られているが、その中で検査を進め、安全な輸血療法を行うための検査報告をすることが検査技師の使命である。ガイドライン等を再確認し、日常業務に生かしていきたいと考える。

(文責：宮澤翔子)

**テーマ 埼玉県臨床検査技師会 病理検査・細胞検査研究班合同研修会  
「標本作製の標準化への道」**

主催 病理検査・細胞検査研究班

実施日時：平成30年11月3日 13時25分～16時45分

会 場：埼玉会館 7B会議室 点数：専門教科－20点

講演1：病理検査の品質管理

講 師：小澤 英樹（株式会社ピーシーエルジャパン）

講演2：組織標本作製のピットホール

講 師：三鍋 慎也（防衛医科大学校病院）

講演3：見つめ直そう、細胞診標本作製 アンケートを加味したピットホールー

講 師：急式 政志（埼玉県立小児医療センター）

講演4：脂肪染色標本作製の工夫

講 師：松本 祐弥（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演5：LBC標本（TACASTM・Ruby）の検討と細胞像

講 師：小林 要（医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院）

講演6：Papanicolaou染色の試薬管理について

講 師：中村 祐司（日本医科大学武藏小杉病院）

参加人数：会員75名 賛助会員1名 非会員1名

出席した研究班班員

病理検査研究班：岡村卓哉 三鍋慎也 細沼佑介 高橋俊介 関口久男 今村尚貴 森田繁  
小島朋子

細胞検査研究班：加藤智美 山崎泰樹 鶴岡慎悟 松内萌 野本伊織 急式政志 松本健宏  
船津靖亮 大谷奈穂 金守彰

研修内容・感想など

今回の合同研修会では標本作製の標準化への道と題し、病理・細胞それぞれの見地から班員を含む6名の講師に講演していただいた。講演1では病理検査における品質とは何か、管理の実例や対策方法について講演していただいた。診療報酬の観点から病理では患者が負担する費用は大きく、作製した標本に対し責務が大きいという意識が大切である。また、「患者のことを想う気持ち（検体はモノではない）」「建設的な考え方を持つ教育を行う」「自発的な取り組みを評価支援する」等を再認識することが重要である。講演2では包埋・ヒューマンエラーに的を絞り、起こり得る例と対策を挙げ解説していただいた。包埋における不適切な操作は誤診や検

体紛失のリスクがある。また、心理的環境と物理的環境の不一致によりエラーが誘発されるため、要因の洗い出しと対策が事故防止へと繋がる。講演3では細胞診標本作製の手技に関して事前に集めた塗抹、湿固定に関するアンケートを基に塗抹標本と細胞像の比較を行った。成書で記載されている手法と、標本の良悪に対する認識は若干のズレがみられた。講演4では脂肪染色における工夫として、薄切後乾燥させず60%IPA (isopropyl alcohol) に浸漬させることで脂肪の流出を防げた。講演5では様々な検体でのLBC標本の細胞像と院内での導入例が紹介された。講演6では、全国16施設で集めたアンケートを基に、Papanicolaou染色の試薬管理状況と標本(子宮頸部NILM例)を比較した。試薬を長期使用する施設では染色性の低下がみられ、適正期間で交換する施設は良好な標本であった。

今回の研修会を機に各施設での標本作製の見直しやより良い作製方法の模索に繋げていただき、検査品質の向上及び標準化を目指していきたい。

(文責: 小島朋子)

## テーマ 第21回 秩父臨床化学セミナー ~秋季1泊研修会~

主催 臨床化学検査研究班研修会

実施日時: 平成30年11月10日 14時00分 ~ 平成30年11月11日 12時00分

会場: 宮本の湯(秩父郡小鹿野町) 点数: 専門教科-30点

講演1: 水分と電解質に関わる輸液

講師: 和田 直城(株式会社大塚製薬工場)

講演2: NSTと臨床検査 ~褥瘡ケアにおける栄養サポート

講師: 松木 友里(ニットーポーメディカル株式会社)

講演3: CDC/WHOの手術部位感染予防ガイドラインから見る周術期の血糖管理の重要性

講師: 松岡 杏奈(Life Scan Japan株式会社)

講演4: ナイトセミナー ~データの見方・考え方: ~患者側、測定側の両側面から学ぶ~

講師: 三木 隆治(獨協医科大学埼玉医療センター)

羽田 幸加(LSIメディエンス 川越ラボラトリー)

講演5: 医療法等の制度改正について ~概要~

講師: 巖崎 達矢(東松山医師会病院)

講演6: はじめての方も知得! Part1 ~測定標準作業書作成のコツ!!~

講師: 安田 達明(上尾中央医科グループ上尾中央臨床検査研究所)

講演7: はじめての方も知得! Part2 ~作業日誌編~

講師: 小林 麻里子(北埼玉医師会立メディカルセンター)

講演8: はじめての方も知得! Part3 ~運用実践編~

講師: 藤本 丈志(株式会社ビー・エム・エル総合研究所)

参加人数: 会員37名 賛助会員23名

出席した研究班班員: 巖崎達矢 永井謙一 大出淳 安田達明 三木隆治 藤本丈志

小林麻里子 羽田幸加 北川祐太朗

研修内容・感想など

今年で第21回目となる秩父臨床化学セミナーを11月10日~11月11日の2日間で秩父郡小鹿野町の宮本の湯で開催した。今回は1日目にチーム医療に必要な知識として日常検査でも役立てる内容を、2日目には今年12月から施行される臨床検査技師等に関する医療法改正に伴い、「はじめての方も知得」というタイトルで各種台帳の作成や運用方法についての講義を行った。

1日目の「水分と電解質に関わる輸液」では、生体内での電解質の役割やバランスの基礎から各種輸液の成分や作用の違いを学んだ。「NSTと臨床検査」では栄養評価の概要から栄養アセスメント蛋白の特性や留意点をはじめ、実際の症例データを元に栄養状態の解釈や、体重から食事等の関係まで普段聞けない内容を幅広く説明していただいた。「CDC/WHO/ASCの手術部位感染予防ガイドラインから見る周術期の血糖管理の重要性」では、ガイドラインを元に血糖測定のスケジュールや管理方法などについて詳しく説明していただいた。講義後には実際のPOCT機器を用いた血糖測定を行い、簡便性や安全かつ迅速に測定が可能であることを実際に体験し学ぶことができた。

1日目の最後には「データの見方・考え方: 患者側、測定側の両側面から学ぶ」という内容でナイトセミナーが行われた。まず血液浄化学に関して透析の基礎や事例を元に検査データの見方を教わり、患者の年齢や薬剤の影響による違い、誤報告を防ぐための考え方について学んだ。次に今夜の症例と題し、いくつかの症例を元にデータに違和感を持ち異常値と判断するの

か？疾患によるものか？薬剤によるものか？など活発なディスカッションを行いながら臨床化學に携わる技師として見逃してはいけないことを学ぶことができた。

2日目は、はじめに医療法等の制度改正についての概要の説明があり、その後「はじめての方も知得！」Part1～3について講義が行われた。まず「測定標準作業書作成のコツ!!」についてISO15189取得経験から感じたSOP作成のルールや注意点について教わり、医師への問い合わせや新人教育としてのツールになるというお話は今後に役立つ内容であった。「作業日誌編」では各種作業日誌の作成ポイントや管理の仕方について教わった。重要なことは施設ごとに合った見やすく統一された資料を作成することで、実例を提示していただき参考になった。

「運用実践編」では衛生検査所における各種作業書や日誌、各種台帳の使用法について説明していただき、効率的な運用方法や正しく作業が行われていることを確認する術について分かりやすく教えていただいた。

2日目の最後には埼玉県臨床技師会の神山会長より今回の法改正は「患者様が困らないために施行していかなければいけない」というお言葉をいただき、改めて検査技師として時代の変化に合わせて検査の質向上に力を入れていかなければいけないと痛感した。

今年も講義後にはフロアからの活発な意見や質問があり活発な意見交換が行われた。特に今回は若い参加者が率先して情報交換をしている姿を多く見かけ、今後の臨床化學の発展につながる有意義な研修会であった。本セミナーで得られた情報や知識を今後の業務に役立てていただければと思う。

(文責：北川裕太朗)

## テーマ 耳鼻科検査の現場から —聴力検査の症例と実際—

主催 生理検査研究班

実施日時：平成30年11月16日 18時30分～20時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科－20点

講 師：浅子 瑞穂（自治医科大学附属さいたま医療センター）

参加人数：会員82名 学生1名

出席した研究班班員：早川勇樹 高梨淳子 田名見里恵 武藤由里子 園部由香 横尾愛

研修内容・感想など

生理検査研究班では、11月16日（金曜日）の18時30分から大宮ソニックシティ601号室にて「耳鼻科検査の現場から」をテーマに『聴力検査の症例と実際』というタイトルで浅子氏に講演をしていただいた。

聴力検査の施行方法に先立ち、耳の解剖学的構造から気導と骨導の音の伝わり方の違い、そしてそれを基とした伝音性難聴と感音性難聴の障害部位の違い、最後にオージオグラムの基本的な見方や評価方法など聴力検査の基礎について説明していただいた。

次に伝音性難聴と感音性難聴に分けてそれぞれ症例ごとの特徴的なオージオグラムのパターンを数多く提示していただいた。先にそれぞれの疾患について説明があったので、症例が提示され説明を聞く度に何故このようなパターンになるのか理解しやすくなっていた。また、疾患ごとに追加すると有用な数多くの検査（ティンパノメトリー、耳小骨反射検査、耳管機能検査、SISI検査、聴性脳幹反応、自記オージオメトリー、語音聴力など）もわかりやすく解説していただけたので、普段追加でこれらの検査を行っていない方にもどうしてこの疾患にこの検査を追加すると有用になるのか理解いただけたと思われる。

その後、標準純音聴力検査の手順の中で多くの方が悩んだことがあると思われる押しボタンでの応答が困難な患者さんの対応方法や、検査をテンポよく施行するために必要なオージオグラムのパターンを読む方法、気道や骨導のマスキング法のやり方などについても言及していただけた。

最後に聴力検査は自覚的・主観的な検査であるが故に、上手く検査が行われないと検査時間がかかるだけでなく正しい結果が得られないことがある。それを防ぎ実力を引き出すために必要なテクニックとして子供や高齢者、高度難聴、外国人などのタイプ別の対応術について詳しく教えていただいた。今回の研修会は直ぐに検査に活かせるような内容となっており、非常に有意義な研修会であった。

(文責：早川勇樹)

**平成30年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第9回 理事会議事録**

**日 時**：平成30年11月8日(木) 19時00分より  
**場 所**：埼臨技事務所  
                  さいたま市浦和区領家7-14-7  
**議 題**：I. 行動報告    II. 報告事項  
                  III. 承認事項    IV. 議題  
**出 席**：(理事)神山 岡田 松岡 小山 濱本  
                  奈良 長岡 小島 神嶋 菊池  
                  長澤 伊藤 濱田 笹野 山口  
                  猪浦 鳥山 阿部 神戸 石井  
                  (監事)遠藤  
**欠 席**：(理事)矢作  
                  (監事)細谷

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は20名で、現在数21名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

**I. 行動報告** (平成30年10月18日～平成30年11月7日)

10月18日(木) 平成30年度第8回理事会：

神山、岡田、矢作、松岡、小山、  
                  濱本、奈良、長岡、小島、伊藤、  
                  菊池、長澤、神嶋、濱田、笹野、  
                  神戸、山口、猪浦、阿部、遠藤、  
                  細谷

10月18日(木)会計入力作業：神戸、阿部

10月19日(金) 第46回埼玉県医学検査学会第12回  
                  実行委員会：

神山、長岡、神嶋、菊池

10月20日(土) 日臨技第2回人事委員会：神山

10月20日(土) 日臨技認定臨床化学・免疫精度保  
                  証制度試験WG会議：神山

10月20日(土) 第18回わらび健康まつり前日準備：  
                  矢作、長澤

10月21日(日) 第18回わらび健康まつり：

神山、矢作、長澤、伊藤、濱田

10月23日(火) 第18回わらび健康まつり後片付け：  
                  矢作

10月26日(金) 日臨技定款・諸規定委員会：神山

10月26日(金) 第13回深谷市福祉健康まつり前日  
                  準備：濱田

10月27日(土) 第13回深谷市福祉健康まつり：  
                  長澤、濱田、笹野、阿部

10月27日(土)・28日(日)  
                  平成30年度日臨技関甲信支部・首

都圏支部医学検査学会：  
                  神山、松岡、矢作、小山、濱本、  
                  奈良、猪浦、阿部、長岡、菊池、  
                  笹野、神戸、小島、伊藤、石井

10月27日(土)一都八県会長会議ホームページ委  
                  員会：矢作

10月27日(土) 日臨技関甲信支部内連絡会議：  
                  神山、矢作

10月28日(日) 第13回深谷市福祉健康まつり後片  
                  付け：長澤

10月29日(月) 平成30年度埼玉県公衆衛生大会：  
                  神山、松岡

10月31日(水) 第2回女性技師企画研修委員会  
                  (メール会議)：  
                  小島、神嶋、菊池、伊藤、石井、  
                  濱田

11月1日(木) 運営組織及び事業活動の状況に關  
                  する立入検査：  
                  神山、矢作、松岡、小山、濱本、  
                  細谷

11月3日(土) 日臨技認定臨床化学・免疫精度管  
                  理指定講習会：神山

11月3日(土) 認知症対策B講習会事前準備：  
                  矢作、奈良、長岡

11月4日(日) 認知症対策B講習会：  
                  神山、矢作、奈良、長岡

**II. 報告事項**

**1 事務局**

- 1) 11月1日(木) 運営組織及び事業活動の状況  
                  に関する埼玉県の立入検査が実施された。
- 2) 埼玉県より第15回ヘルシー・ソサエティ賞  
                  候補者の推薦について依頼があった。
- 3) 日臨技より各賞受賞候補者の推薦について  
                  依頼があった。
- 4) 日臨技より情勢報告会・国会見学、賀詞交  
                  換会、全国幹事連絡会議の開催について通  
                  知があった。

**2 総務部**

- 1) 11月4日(日) 認知症対策B講習会が開催さ  
                  れた。
- 2) 「埼臨技だより」第474号、11月15日発行予定

**3 事業部**

- 1) 10月21日(日) 第18回わらび健康まつりが開  
                  催された。
- 2) 10月27日(土) 第13回深谷市福祉健康まつり  
                  が開催された。

**4 学術部**

- 1) 臨床化学研究班、秩父セミナー用に技師会  
                  P C 2台の貸出し申請を許可した。

**5 精度保証部**

- 1) なし

**6 会計部**

- 1) 平成30年度正会員費 6名30,000円、入会金 6名分6,000円、合計36,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金 34,000円×1研修会、50,000円×2研修会、合計134,000円の入金があった。
- 3) 極東製薬工業株式会社より擬似便特許権等の譲渡対価(平成30年4月1日～9月30日)として288,078円の入金があった。
- 4) 石井印刷へ、埼臨技だより第473号印刷代 152,410円、封筒印刷代87,048円、特集号仕分費28,814円、合計268,272円を支払った。

**7 精度管理委員会**

- 1) なし

**8 一都八県会長会議**

- 1) 10月27日(土)一都八県会長会議ホームページ委員会が開催された。

**9 日臨技関甲信支部**

- 1) 10月27日(土)関甲信支部連絡会議が開催された。

**10 日臨技**

- 1) なし

**11 第46回埼玉県医学検査学会**

- 1) 10月19日(金)第12回実行委員会が開催された。
- 2) 第46回埼玉県医学検査学会特集号を発送した。

**III. 承認事項****1 事務局**

- 1) 会員動向(平成30年度分)
 

平成30年11月1日現在  
会員数 3,040名 [平成29年度会員数2,897名]  
(新入会員 259名)  
賛助会員 80社 [平成29年度 86社]

承認された。
  - 2) 群馬パース大学附属研究所・先端医療科学研究センターの共同利用共同研究拠点化についての要望書の提出と神山会長を外部委員として派遣する。
- 承認された。

3) 平成31年度定時会員総会の開催候補日について平成31年6月14日を第一候補日、6月7日を第二候補日とする。  
承認された。

4) 日臨技情勢報告会・国会見学、賀詞交換会、全国幹事連絡会議の開催について神山会長と岡田副会長が出席する。  
承認された。

**2 総務部**

- 1) 特になし。

**3 事業部**

1) 全国検査と健康展埼玉会場の実務委員について  
承認された。

2) 平成31年賀詞交歓会および各賞受賞記念祝賀会の案内状について  
承認された。

**4 学術部**

1) 埼臨技会誌投稿規定の改定と利益相反申告書の制定について  
承認された。

2) 研究班研修会用一括領収書の公印、割印について(電子印)  
継続審議となった。

**5 精度保証部**

- 1) 特になし。

**6 会計部**

- 1) 特になし。

**7 精度管理委員会**

- 1) 特になし。

**8 第46回埼玉県医学検査学会**

- 1) 特になし。

**IV. 議題**

- 1) 特になし。

**V. その他**

1) 松岡副会長より、平成31年度の各部・委員会・研究班の事業予算案の作成依頼があった。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

**埼臨技事務所の年末年始休暇について**

平成30年12月29日(土)～平成31年1月4日(金)

上記期間は埼臨技事務所がお休みになります。

土、日のため事務所の仕事始めは1月7日(月)となります。



## 平成30年度 第2回 検査室運営研修会のお知らせ

「こんな時、皆さんどうしてますか?  
クリニックから大学病院までの情報交換会」  
～ズバッと解決!? 日常業務の問題点～

検査室管理運営委員会では、先般、実施した第1回検査室運営研修会時に行ったアンケート集計より本研修会を企画いたしました。「法律改正があった院内の精度管理!! 実際どうしてる?」「検査機器購入・更新・メンテナンス!! どのようにして?」「コスト削減!! どのようなことしている?」「日常業務で結果判定に困惑!! そんな時どうしてる? 誰に相談したら良い?」などクリニックで・1人検査室で・小規模検査室で、どうしたら良いのか分からないとお悩みの施設会員の皆様!! ご自分で抱え込まないで下さい!! 本音で・内緒で語り合いませんか? 県内の規模別施設から、管理運営・日常業務にも携わるベテラン技師が参加し情報交換会を開催します。お互い同じような悩みを抱えた者同士が自由に意見交換をしながら、知恵を出し合って解決の糸口や、具体的な対応策を、皆さんで見つけ出していくかもしれません!! 規模・人員・環境・待遇・スタイル等異なる施設での、対応は多々あります。自分の施設にあった情報を一つでも持ち帰って、自分流にアレンジして、自分たちの検査室運営・改善に役立ててください。今回、そんな会を企画しました。是非とも参加しませんか? 小・中規模施設の皆さんのが参加をお待ちしております。

※この企画に対するご質問・ご意見等ございましたら、下記まで問い合わせてください。

医療法人社団協友会 メディカルトピア草加病院 濱田 昇一

TEL 048-928-3194 (直通) Mail hamada@mtopia.jp

開催日時：平成31年2月26日(火) 19:00～20:30

開催場所：大宮ソニックスティ 602号室

参加費：300円



## 平成30年度 日臨技・埼玉県臨床検査技師会主催 多職種連携のための臨床検査技師 能力開発講習会のご案内

本講習会は、国民の医療に対するニーズの多様化、複雑化により臨床検査技師の職域も検査室から外来や病棟へとより患者の身近な検査業務が求められている現状をふまえ、他職種の業務等を学び、「多職種連携のチーム医療に積極的に参画すること」で、医療の質の向上に貢献することを目的とし、日臨技の委託を受けて埼臨技で実施するものです。

### 1. 受講対象

検体採取等に関する厚生労働省指定講習会を受講者で、他県からの受講も認めます。定員は60名です。

### 2. 修了の認定

修了者は、日臨技生涯研修制度の基礎30点を履修とした上で、都道府県会長名で修了証を交付します。

### 3. 開催日と会場

平成31年3月16日(土)～3月17日(日) さいたま赤十字病院 研修室

#### 4. その他

講習会参加費、カリキュラム、申し込み方法等の詳細はホームページおよび1月号 darüberよりお知らせいたします。会員皆様のご参加をお待ちしています。

## 求人案内

### ○医療法人 社団俊睿会 南埼玉病院

採用条件：臨時職員（パート）  
連絡先：048-965-1151 事務長 宮田久美子

### ○医療法人社団 全仁会 東都春日部病院

採用条件：正職員、臨時職員（パート）  
連絡先：048-739-2000 事務長 東海林常夫

### ○一般社団法人 大宮医師会メディカルセンター

採用条件：その他（短期パート）  
連絡先：048-665-6559 廣田、吉田

### ○医療法人 早仁会 久喜メディカルクリニック

採用条件：正職員、臨時職員（パート）  
連絡先：0480-25-6555 村上

### ○川口市立医療センター（内）健診センター

採用条件：臨時職員（パート）  
連絡先：048-287-2525 庶務課

### ○医療法人社団 協友会 メディカルトピア草加病院

採用条件：正職員  
連絡先：048-912-1122 総務人事担当 角 優子

### ○医療法人社団 協友会 彩の国東大宮メディカルセンター

採用条件：正職員  
連絡先：048-665-6166 人事課採用担当 大山

### ○医療法人 大西会 しんえいクリニック

採用条件：臨時職員（パート）  
連絡先：048-941-5211 大西

### ○社会福祉法人 埼玉慈恵病院

採用条件：正職員  
連絡先：048-521-0321  
総務課 小暮、検査科 高田

### ○医療法人 大宮シティクリニック

採用条件：正職員、臨時職員（パート）  
連絡先：048-645-1256 本部長 星野

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

## あとがき

このあとがきが掲載される頃には、第46回埼玉県医学検査学会が終了しています。今回私は、実行委員長として1年間会務に携わってきました。2017年11月が第1回実行委員会でしたので、約1年間、実行委員会は13回に及び、その他部門別の会議、4,000通を超すメールのやり取りを経て様々な案件を討議し決定してきました。

実行委員18名、学会担当理事1名は当然ご施設でのお仕事もある中で、頑張っていただきました。本当に感謝しかありません。また、埼臨技の理事、監事、事務員、研究班の皆様、賛助会員の皆様のご協力があつて会務を進めてこられました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

12月2日（日）は来場された皆様にとって有意義な1日となることを祈りながら、今日は11月28日、学会当日4日前、かなりドキドキでこの文章を書いています！

（長岡 記）

